

令和2年度地震・津波防災訓練 (内閣府・高知県・中土佐町)

実施報告書 (概要版)

高知県中土佐町について

中土佐町は、海岸部（旧中土佐町地域）と山々に囲まれた海拔 300m 以上の台地部（旧大野見村地域）と大きく二分される。

中土佐町では、土佐湾沖の南海トラフを震源とする南海トラフ地震が 21 世紀前半にも非常に高い確率でその発生が懸念されており、ひとりひとりが地震の揺れから身を守り、迅速に安全な高台へ避難する、津波からの避難行動が極めて重要となっている。

今後の訓練や実際の災害時の実効性を高めるために、町としての自助・共助・公助のあり方や細部の調整の気づきを見いだすねらいとした。

町職員を中心に、避難所開設および迅速な運営と各チーム連携の重要性を認識し、町内の共助の重要性に気づく知識習得の機会とした。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：令和2年11月8日（日）、午前9時30分頃、南海トラフによる巨大地震が発生し、中土佐町では最大震度7を観測した。中土佐町では、停電が発生し、各信号交差点が混乱。その後、気象庁は大津波警報を発表、中土佐町役場では直ちに町内全域に対して地域防災無線で避難指示を発令し、防災関係機関は応急対策活動を開始した。
 - 実施日時：令和2年11月8日（日）9:30～12:00
（11月4日（水）事前ワークショップ、11月8日（日）訓練後ワークショップ）
 - 実施地区：中土佐町
 - 主催：中土佐町、高知県、内閣府
 - 参加者数：130名程度
 - 参加機関：中土佐町職員、高幡消防組合中土佐分署等
- ※新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために参加者を絞り込み、役場職員が中心となった地震・津波防災訓練として実施し、自らの命を守ることと職員として災害対応を行うことの両面を検証する企画とした。

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、全町職員約130名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、各班で振り返りおよびアンケートを分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考とした。

【得られた成果】

- 町職員全員が津波到達予想時刻までに避難経路の要所を通過でき、浸水想定区域を越えることができた。
- 感染症対策として検温・手指消毒等の作業を滞りなく円滑に実施でき、実際の災害時の感染症対策の手順を確認できた。

【今後の対策案】

- 災害対策本部設置後は、統括責任者の指示のもと、適切でスピーディな情報共有・伝達できる体制や環境を整備しておくことが望ましい。
- 訓練後に役場本庁舎が移転しており、新たな初動体制の確立と習熟が必要である。

訓練内容

令和2年10月4日(水) 事前ワークショップ

災害時における共助を実践する上での町職員の役割についての講演にて、町民の自助・共助の必要性と地区防災計画作成の意義を学び、策定につなげる方策を検討し、訓練に向けて意識を高めた。

▼高知大学大槻知史准教授による講演会



▼ワークショップの様子



令和2年11月8日(日) 9:00～

シェイクアウト訓練・津波避難訓練・避難所開設訓練・設置運営訓練・災害対策本部設置運営訓練・通信資機材活用訓練・物資調達システム訓練・職員安否確認訓練・医療救護所開設運営訓練・情報伝達訓練

緊急地震速報の発表後、参加者は、役場庁舎内の各自の場所でシェイクアウト訓練を実施し、身の安全を確保した。

家具の転倒を想定し避難所の鍵など重要な物品の保管場所の検討が必要であることが分かった。

その後、最寄りの高台へ津波避難訓練を行った。この際、避難所開設に必要な物品持ち出しリストの必要性を実感した。

高台である久礼中学校へ避難後、災害対策本部を設置し、各担当の班ごとに各種初動対応訓練を行い、災害時の業務手順を確認した。発災時の役割分担について係毎に担当業務を整理した初動マニュアルの整備の必要性に気付くことができた。

また災害対策本部への情報伝達訓練では資機材の不備により情報交換ができない事案が発生したため確認が必要であることが分かった。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



▼災害対策本部設置運営訓練



▼避難所開設訓練

▼医療救護所開設運営訓練



11月8日(日)11:30～ 訓練後ワークショップ

訓練終了後、各班で訓練時の行動を振り返り、初期対応では、他の班がどのような行動をとっているかの把握が難しく、災害対策本部との情報共有が課題にあがった。また各地域で地区防災計画を見直し、町と連携して、避難行動に取り組むことが必要であるとの認識を共有した。

▼振り返りの様子



※本訓練は役場職員を対象とした訓練としたことから、感想聴取や知識の有無に関する質問を割愛し、役場職員としての心構えや、災害対応業務を円滑に進める上で考慮すべきこと等を聴取し取りまとめた。

① 今回の訓練で気付いた“あなたの班内”の課題があれば教えてください。

- 物資の確認が取れず、「何が、いくつ、どこにあるのか」把握する必要があると思った。
- 医療救護について、担架に乗せる時と、ベッドに乗せる時の2回の乗せ換えが発生する。実際の現場では出血していたり痛みを訴えたりすると思われるので更なる習熟が必要と感じた。
- 厚生部で医療教護（トリアージ）等を担ったが、12名ほどの被災者がいる程度順番に来ての対応にも職員の手が追いつかない状況であった。実際の被災時（被災者）の傷病者対応を考えると、とても職員だけでは対応が難しく対策が必要であると考えた。
- トリアージをすることに必死になりすぎて、LINE WORKSの確認が行えていなかった。

② 今回の訓練で気付いた“配備全体”の課題があれば教えてください。

- 倉庫の物資を管理する方が必要と感じました。
- 訓練後の課内で、「経験と知識がない役場職員では、実際には対応できないのでは」と意見が上がったのが、トリアージ行為であった。医療従事者ではない職員のスキル・判断が必要であると感じた。
- 他の避難場所の備蓄庫カギや必要物資の場所が分からないので、出先や応援要請ではほぼ役に立てない状況のため、きちんと把握する必要がある。
- 訓練不足が否めずスムーズな対応ができたとは言い難いので、各班でシミュレーション訓練などを定期的に行う必要がある。

③ 今後、“職員の防災スキルアップ”にとって必要と感じる訓練等があれば教えてください。

- 応急処置の方法について。
- 医療関係者の不足時に役立てるため、救急救命の訓練が定期的であればいいと思う。
- 今回は参加者数の都合で配置された班以外の訓練にも参加しました。自分の班の役割を習熟することはもちろんですが、有事の際には人員が不足すると思われるので自分の班以外の役割をこなせるようになり、結果として全体の対応能力が向上すればと思った。
- 機器の機能と操作方法等の勉強会。少数配備時に優先すべき業務の整理。
- 各避難所の概要把握。（例）消防団の防火水槽MAP。
- 仮想危険箇所（表示付き）も組合せ、新庁舎での対応訓練を実施したい。
- 今回他の班がどういった動きをしているかが全く分からなかったなので、情報伝達に関する訓練があれば情報共有もスムーズにいくかと思う。